



シラバス

令和6年度（2024年度）

2年次 履修科目

指定保育士養成施設 こども學舎

シラバス目次

社会的養護 I B	1	保育実習指導 I B	18
子ども家庭支援の心理学	2	保育実践演習	19
保育の計画と評価 B	4	音楽	21
保育のシゴト B	5	造形	22
文章表現 II	6	体育（実技）	23
英語	7	保育実習指導 II	25
子どもの理解と援助	9	保育実習指導 III	26
保育内容演習（ことば）	10	社会福祉施設経営と管理	27
保育内容演習（人間関係）	11	メンタルヘルス	28
保育内容演習（健康）	12	キャリアプランニング II	29
保育内容の理解と方法（言語表現）	13	療育総論	30
乳児保育 II	14	情報処理応用	31
子どもの健康と安全	15	幼児体育 II	32
社会的養護 II	16	ピアノ B	33
子育て支援	17		

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
社会的養護 I B		1 単位			
開講年次	2 年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
<p>(授業のテーマ) 社会的養護について、広い視点から理解を深めるとともに、専門性を高めていく。 ① ディスカッションを交えながらの事例検討 ② 個別支援計画の作成やソーシャルワーク実践の流れについて ③ 社会問題について福祉的視点で考える ※オンラインなどの状況により変更する可能性があります</p> <p>(学習目標) 多様性を受け入れ、よりグローバルな視点で考え、個々に寄り添った関わりかたを身につける。 ※オンラインなどの状況により変更する可能性があります</p>					
評価方法・基準					
発言力、協調性、客観性、グローバル視点、誠実性、レポート、テストなど ※オンラインなどの状況により変更する可能性があります					
履修上の注意点					
知識や技能の習得は必要な要素だが、社会的立場において「子どもと、個の人間として関わる ことができるか」について個々に模索し、イメージや意味づけを行なう姿勢が望ましい。					
教科書					
社会的養護〈1〉(図解で学ぶ保育)・児童の福祉を支える演習社会的養護Ⅱ 萌文書林					
参考書					
特になし					

授 業 内 容	
1 回	専門職と資格、第三者評価、苦情解決 ※オンラインなどの状況により講義内容や展開が変更する可能性があります
2 回	ソーシャルワーク① (マクロ、メゾ、ミクロ)
3 回	ソーシャルワーク② (個別支援計画、相談支援)
4 回	事例検討① (例：いじめについてなど)
5 回	事例検討② (例：性についてなど)
6 回	事例検討② (例：差別についてなど)
7 回	事例検討 or ソーシャルワーク実践に必要な用語
8 回	事例検討 or ソーシャルワーク実践に必要な用語
9 回	事例検討 or ソーシャルワーク実践に必要な用語
10 回	テスト or レポート
11 回	テスト or レポート
12 回	テスト or レポートのふりかえり
13 回	ボランティア論
14 回	社会的養護復習とまとめ・授業ふりかえり
15 回	保育士を目指す皆さんへ (自己覚知、自己開示)

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
子ども家庭支援の心理学		2単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
<p>(授業のテーマ)</p> <p>生涯発達の意味を理解し、「こども」の発達と「親」としての発達の観点から基本的知識を体得していくことを目的とする。</p> <p>1) こどもの遊び及び生活の実態に即した子どもの生涯発達の意義をする。 2) 家庭、幼稚園、地域等のこどもを取り巻く環境の特質や関連性を捉えることの意義を理解する。子ども発達及び学びを捉える原理を理解している。 3) 個と集団の関係を深めるための保育者の基本的な態度を理解している。 4) 保護者の心情及び基本的な対応の方法を理解している。</p> <p>発達は一生涯の積み重ねであるという観点から、それぞれの段階／時期における特徴を講義形式で概観する。</p> <p>(学習目標)</p> <p>発達の各段階について理解し、教育や保育における具体的な働きかけとその留意点について説明できる。子どもの発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付ける。</p>					
評価方法・基準					
授業への参加・貢献度 (30%)、授業内ワーク (30%)、試験 (40%)					
履修上の注意点					
資料は全て電子的な方法 (Google drive など) で配布し、紙資料は配布しない。各自必要に応じて印刷して持参すること。					
教科書					
参考書					
電子的な方法で適宜補足資料を配付する。					

授 業 内 容	
1回	【家庭支援の概要】 保育指針と家庭支援
2回	環境とアタッチメント
3回	子どもにとっての家庭
4回	【家庭支援とコミュニケーション】 家庭支援に必要な対話のスキル①
5回	家庭支援に必要な対話のスキル②
6回	家庭支援に必要な対話のスキル③
7回	家庭支援に必要な対話のスキル④
8回	家庭支援に必要な対話のスキル⑤
9回	保護者支援に必要な対話のスキル⑥
10回	【就学支援】 学校教育現場の実情
11回	就学で子どもが抱えやすい課題
12回	就学によって保護者が抱えやすい不安
13回	【発達障害の理解と支援】 自閉スペクトラム症についての概要
14回	自閉スペクトラム症を抱えた子どもの支援
15回	自閉スペクトラム症の子どもを持つ家庭の支援

	授 業 内 容
16回	AD/HD についての概要
17回	AD/HD を抱えた子どもの支援
18回	AD/HD の子どもを持つ家庭の支援
19回	【虐待の予防とケア】 CARE と PCIT の紹介
20回	CARE の 3 つの Don' t スキル
21回	CARE の 3 つの Do スキル
22回	CARE の戦略的無視のスキル
23回	CARE の効果的な指示のスキル
24回	CARE スキルのまとめ
25回	日本における虐待の実情
26回	虐待の予防
27回	虐待の早期発見
28回	被虐待児への支援
29回	虐待加害家庭への支援
30回	科目終了試験

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
保育の計画と評価B		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 1. 部分実習、完全実習の指導案作成 2. 実習で実践できるものをそれぞれで考える					
(学習目標) 1. 部分実習、完全実習の指導案を作成に慣れる、もしくは完成させる 2. 気持ちを恥ずかしさから開放し、全力保育を行う為の気持ち作り 3. 保育で実践できるものを1つでも多く積極的に覚える 4. 子ども達の立場になって考える習慣を作っていく					
評価方法・基準					
<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の練習を積極的にしている。 ・出席状況、授業態度、積極性を総合的に評価する。 ・話をしている人に対して傾聴する。 ・教員を含め、授業に参加している全ての人の意見、考えを肯定的に聞く、話す。 					
履修上の注意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・指導案作成について、他者の意見を聞きながら自分自身で計画を立てるよう努力する。 ・内容の深まり具合によって授業内容が前後する。 ・積極的に学ぶ。 					
教科書					
教育課程・保育の計画と評価(萌文書林)					
参考書					

授 業 内 容	
1回	保育の全体計画について 教育課程について学ぶ。
2回	教育課程について 月案、週案について
3回	子どもの姿、ねらい、内容等について学ぶ。
4回	指導案を書く練習
5回	指導案を書く練習
6回	指導案を書く練習
7回	指導案を書く練習(完成した人は確認)
8回	指導案を書く練習(完成した人は確認)
9回	指導案を書く練習(完成した人は確認)
10回	指導案を書くにあたり、困りごとや難しい点を出し、検討する。
11回	自分の指導案の内容を保育士役として実践練習(希望者)
12回	自分の指導案の内容を保育士役として実践練習(希望者)
13回	自分の指導案の内容を保育士役として実践練習(希望者)
14回	自分の指導案の内容を保育士役として実践練習(希望者)
15回	自分の指導案の内容を保育士役として実践練習(希望者)

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
文章表現Ⅱ		1単位			
開講年次	1年	科目区分	必修	授業形態	授業
科目概要					
<p>(授業のテーマ) “書き”言葉を正確に使用できるよう、日本語の基礎から振り返る。</p> <p>(学習目標) ①文章を正確に書くために必要な、日本語の文章を理解する。 ②語義を正しく把握し、語彙を増やす。 ③正しい表記ができる。</p>					
評価方法・基準					
<p>単位取得のためには、以下のそれぞれについて基準を満たすことを必要とする。</p> <p>①出席等の授業姿勢（但し、漫然と授業に出席しているだけでは要件を満たさない） ②提出物 ③試験</p>					
履修上の注意点					
<p>①授業を積極的に聞き、内容を理解できるよう努めること。 ②国語辞典（電子辞書可）を用意し意識的に使用すること。 ③意識して自身が発話している日本語を批判的に捉えること。 ④課題は提出期限を守ること（遅延は認めない。止むを得ず、欠席しなければならない場合があること等を考慮して、前倒して行動する）。 授業内容予定は以下に示した通りであるが、目安であり変更になることもある。</p>					
教科書					
特に指定しない。受講の際に必要なレジュメは適宜、配布もしくは指示する。					
参考書					
特に指定しない。					

	授 業 内 容
1回	日本語文法①
2回	
3回	
4回	日本語文法②
5回	
6回	
7回	日本語文法③
8回	
9回	
10回	語義と語彙
11回	
12回	
13回	表記
14回	
15回	試験

令和6年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
英語			2単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
<p>(授業のテーマ)</p> <p>この授業では、国際化社会において保育の現場で求められる実践的な英語力をつけていきます。教材には、園児や保護者とのダイアログ（会話文）、コミック、洋楽などを使用し、英語の口語表現を学びます。</p> <p>また、日本と外国の文化・考え方・マナーの違いなども授業内で紹介し、外国人の子どもや保護者と接する際に気を付けるべき点なども学んでいきます。</p> <p>(学習目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもたちに英語を教えられる基礎英語力をつける。 2. 外国人の保護者と適切にコミュニケーションがとれる英会話力をつける。 3. 日本と外国の文化・考え方・マナーの違いを理解し、国際的感覚を身に着ける。 					
評価方法・基準					
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 50% ・平常点（授業への意欲・参加） 30% ・課題提出 20% 					
履修上の注意点					
<p>授業に毎回持参する必要はありませんが、予習・復習をする際に便利なので、英和辞書を準備して下さい。電子辞書、紙の辞書、どちらでも構いません。</p>					
教科書					
<p>プリントを使用します。</p>					
参考書					
<p>授業内で提示します。</p>					

授 業 内 容	
1回	ガイダンス（授業内容の紹介、英語の学習方法について）
2回	コミック・ジョークで口語表現の学習 1
3回	英語の発音法則について、洋楽で発音練習 1
4回	会話練習（自己紹介の際の表現）
5回	コミック・ジョークで口語表現の学習 2
6回	会話練習（登園の際の表現）、洋楽で発音練習 2
7回	会話練習（歌・音楽・読み聞かせの時間の表現）
8回	コミック・ジョークで口語表現の学習 3
9回	会話練習（お絵描き・工作の時間の表現）、洋楽で発音練習 3
10回	会話表現（外遊びの際の表現 1）
11回	コミック・ジョークで口語表現の学習 4
12回	会話表現（外遊びの際の表現 2）、洋楽で発音練習 4
13回	会話表現（昼食の際の表現）
14回	コミック・ジョークで口語表現の学習 5
15回	会話表現（着替え・おむつ交換の際に使う表現）、洋楽で発音練習 5

	授 業 内 容
16 回	会話表現（トイレの際に使う表現、お昼寝の時間の表現）
17 回	コミック・ジョークで口語表現の学習 6
18 回	会話表現（ケガ・病気に対処する際の表現）、洋楽で発音練習 6
19 回	会話表現（けんか・トラブル対処の際の表現）
20 回	コミック・ジョークで口語表現の学習 7
21 回	会話表現（お迎えの時間の表現）、洋楽で発音練習 7
22 回	会話表現（保護者との会話表現 1）
23 回	コミック・ジョークで口語表現の学習 8
24 回	会話表現（保護者との会話表現 2）、洋楽で発音練習 8
25 回	会話表現（保護者との会話表現 3）
26 回	コミック・ジョークで口語表現の学習 9
27 回	会話表現（保護者との会話表現 4、進級・卒園の際の表現）、洋楽で発音練習 9
28 回	復習とまとめ 1
29 回	復習とまとめ 2
30 回	定期試験

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
子どもの理解と援助		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
<p>(授業のテーマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「物事を深く考えていない」「自己中心的な存在」など否定的な見方をされることが多い子どもたちだが、「果たして本当にそうなのだろうか？」子どもの気持ちに寄り添うことの大切さを改めて知る。 ・ 現場の子どもたちのエピソードや現場のDVD（動画）をもとに考える。 <p>(学習目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 					
評価方法・基準					
授業態度（60％＝4％×15回）レポート（40％＝10％×4回）で評価					
履修上の注意点					
教科書					
保育の瞬間 柴田 愛子：学研					
参考書					
こどものみかた春夏秋冬		柴田 愛子：福音館書店			
子どもたちのミーティング		柴田 愛子 青山 誠共著：りんごの木			
保育者の地平		津守 真：ミネルヴァ書房			
保育でつむぐ子どもと親のいい関係		井桁 容子：小学館			
心をとめて 森を歩く		小西貴士 河邊貴子：聖公会出版			
新しい保育講座3 子ども理解と援助：ミネルヴァ書房					

授 業 内 容	
1回	オリエンテーション（講義の方向性を再認識する） 保育原理の「子ども理解」を振り返る
2回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？①
3回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！①（DVD視聴） 【レポート①】
4回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？②
5回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？③
6回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！②（DVD視聴） 【レポート②】
7回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？④
8回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？⑤
9回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！③（DVD視聴） 【レポート③】
10回	子どもの気持ちを知った保育者の対応は？①
11回	子どもの気持ちを知った保育者の対応は？②
12回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！④（DVD視聴） 【レポート④】
13回	子どもをより知るための方法 （よく観る・メモをとる・振り返る・対話・連絡帳やクラス便りで共有）
14回	特別な配慮を要する子どもを通じて
15回	まとめ（振り返り）

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
保育内容演習（ことば）		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
<p>（授業のテーマ） 保育所保育指針に示された保育所保育の基本を踏まえ、領域「ことば」のねらい及び内容を理解することをテーマとしている。 また、児童文化財の重要性を学び、言語的表現技術の向上を目指す。</p> <p>（学習目標） 領域「ことば」を踏まえ、言葉の発達の概要や自己表現、コミュニケーションツールとしての言葉の捉え、また、児童文化財と子どもの育ちの関係性を含め、「ことば」の領域に関して総合的に援助が行えるような知識を習得する。</p>					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性、試験成績等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
①外部からの講師の方からお話をうかがう機会があるので、礼を失することのないよう謹聴すること。 ②テキストの当シラバスの授業予定にある該当箇所を、必ず事前に熟読し、不明な点を自ら整理しておくこと。					
教科書					
コンパクト版 保育内容シリーズ「ことば」 一蔵社					
参考書					
適宜、参考資料を配布する。					

	授 業 内 容
1回	保育内容「言葉」の意義 ・人間にとっての言葉 ・領域「言葉の特徴」
2回	領域「言葉」の概要 ・領域「言葉」とは何か ・領域「言葉」のねらいと内容 ・改定のポイント
3回	言葉をよりよく理解するために ・幼児語研究の歴史 ・多文化共生 ・多文化保育の観点から
4回	言葉の発達の概要 ・前言語期の言葉の発達 ・話し言葉の視点から ・読み言葉の視点から
5回	自己表現・コミュニケーションツールとしての言葉 ・言葉の機能について ・保育の場面から事例を通して
6回	言葉と基本的な生活習慣 ・言葉と基本的な生活習慣との関係 ・人間関係の基盤としての言葉
7回	言葉と児童文化 ・歌を楽しむ児童文化 ・物語を楽しむ児童文化
8回	言葉の味わい ・言葉への興味関心 ・唄えて楽しむ言葉
9回	文字としての言葉 ・話し言葉と読み言葉・書き言葉 ・文字の獲得 ・文字と関わる保育
10回	指導計画と評価 ・指導計画例
11回	0～2歳児の保育と実践 ・乳児期の言葉 ・1歳の言葉 ・2歳の言葉
12回	3歳～6歳児の保育と実践 ・絵本、幼年文学を通して ・言葉遊びの過程から
13回	小学校との連携 ・連続性のあるカリキュラム ・学力の基盤としての「言葉」
14回	特別な支援を必要とする子どもと領域「言葉」 特別な支援を必要とする子どもの言語発達の特徴と保育の場での配慮ポイント
15回	現代社会における「言葉」の問題 ・現代社会の様相と「言葉」 ・「言葉」を育む環境としての保育者と将来の展望

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
保育内容演習（人間関係）		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
<p>（授業のテーマ） 保育所保育指針に示された保育所保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、保育における子ども、保護者、地域社会を含めた「人間関係」についての知識や援助方法を習得する。</p>					
<p>（学習目標） 保育所保育指針の領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、乳幼児における「人と関わる力」の育ちの過程を理解する。また、保護者との人間関係、保育者同士の人間関係の重要性を理解する。</p>					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性、試験成績等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
コンパクト版 保育内容シリーズ「人間関係」 一蔵社					
参考書					
適宜、参考資料を配布する。					

授 業 内 容	
1回	人との関わりの基礎—人間環境の発達課題 ・社会で生きるための基礎 ・愛着形成の重要性
2回	子ども理解の必要性 ・子ども理解に関する2つの方法 ・子ども一人ひとりを理解するとは
3回	子どもを取り巻く環境の問題 ・子育ての時代的背景 ・現代社会の中で子どもを取り巻く問題
4回	遊びと人間関係 ・遊びの発達と人間関係 ・遊びのなかのひとりの関わり
5回	集団生活と人間関係 ・道徳性と規範意識 ・自己制御
6回	就学までに育てたい人間関係 ・小学校教育への接続 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
7回	領域「人間関係」のねらいと内容—0～2歳 ・0～2歳児の保育所保育指針の改訂について
8回	領域「人間関係」のねらいと内容—3～6歳 ・3歳児以上の要領・指針の改訂と「人間関係」のねらい
9回	0～2歳児の人間関係を育む保育実践
10回	3～5歳児の人間関係を育む保育実践
11回	家庭との連携で育む人間関係 ・保育者と保護者の協働で子どもの成長を支える
12回	異年齢保育が育む人間関係 ・異年齢保育の効果
13回	地域との連携で育む人間関係 ・地域における子育て支援の実践
14回	特別な支援が必要な子どもの保育
15回	領域「人間関係」の指導計画と評価 まとめ

令和6年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容演習（健康）			単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
<p>(授業のテーマ)</p> <p>乳児期における3つの視点（健やかに伸び伸びと育つ・身近な人と気持ちが通じ合う・身近なものに関わり感性が育つ）と、5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を通して捉え、子どもの発達に対する理解を深めながら、「保育内容健康」「健康および安全」について具体的に理解することをねらいとしている。</p> <p>養護と教育を一体的に捉えた保育内容、家庭との連携を通して、子ども一人ひとりの「心」「身体」「命」を守っていくために必要な、具体的な知識・技術・判断力を習得する。</p> <p>(学習目標)</p> <p>(1)子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境構成、教材の活用と工夫、保育過程とその実際について理解し、実践的な力の基礎を習得する。 (2)子どもの育ちの連続性について学び、家庭との連携の中で育つ子どもの姿を理解する。 (3)実践の場で求められる寄り添いの姿勢と発信する力を習得する。</p>					
評価方法・基準					
<p>授業態度（積極性、課題意識、主体性、発信力）・出席状況・提出物・発表・レポート・グループワークなどを総合的に評価します。</p> <p>到達度だけでなくそこに至る過程において、自分の想いを表現する、他者の考えに耳を傾けるなど、意欲・興味・関心・他者との協調・協働という姿勢を重視します。</p>					
履修上の注意点					
<p>乳幼児期の子どもたちに育って欲しいと願う姿でもある、「主体的に考え、積極的に行動する」姿を皆さんにも期待しています。この場所で出会えた皆さんと、自身が抱える悩みや課題点についても一緒に考えていけたらと思っています。言葉に想いをのせて語り伝えられる保育者を目指してほしいと願っています。</p> <p>進行状況に応じて授業内容で変更が生じる場合は、事前にお知らせします。</p>					
教科書					
無藤隆（監修）『事例で学ぶ保育内容 領域健康』（2020）萌文書林					
参考書					
<p>・汐見稔幸（監修）『イラストたっぷりやさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』（2020）学研</p> <p>・東社協保育士会保健部会『改訂版保育園の保健のしごと』（2019）赤ちゃんとママ社</p> <p style="text-align: center;">＜その他必要に応じて、授業内で資料を配布します＞</p>					

授 業 内 容	
1回	はじめに・幼児教育の基本 ～保育者を目指す皆さんへ～
2回	子どもの育ちと領域「健康」保育所保育指針改定のポイント (乳児・養護・健康・災害への備え・園内研修の充実)
3回	領域「健康」と他領域のとの関係 (総合的な保育・養護と教育)
4回	年齢別にみる身体発達と基本的生活習慣 (乳児・0歳児、1～2歳児・特別な配慮を要する個別の支援)
5回	年齢別にみる身体発達と基本的生活習慣 (幼児・3～5歳児・特別な配慮を要する個別の支援)
6回	子どもの健康と遊び (興味を引き出す環境構成・指導計画と評価)
7回	保育現場における健康と安全 (安全対策・危機管理・事故対応・応急処置)
8回	子どもを取り巻く今日的課題 (虐待・生活リズムの確立・保育時間の長時間化)
9回	家庭との連携・育ちの連続性 保育者に求められる家庭支援の現状と課題
10回	保健日より作成へ向けた課題・テーマの整理（グループワーク）
11回	保健日より作成（グループワーク）
12回	保健日より作成（グループワーク）
13回	保健日よりグループ発表
14回	子どもを取り巻く今日的課題（事例検討）
15回	まとめ・個別最終レポート作成

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
保育内容の理解と方法（言語表現）		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
<p>（授業のテーマ）</p> <p>① 表現活動に係る児童文化財等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的な展開のための技術を習得する。</p> <p>② 児童文化財についての知識を学ぶ。</p> <p>③ 知識を基に児童文化教材を作成する。</p> <p>（学習目標）</p> <p>子どもの発達と児童文化財等に関する知識と技術を習得する。 さまざまな教材の特性を理解し、活用することが出来る。 学んだ知識を活用し、保育園場で求められる児童文化教材を作成する。</p>					
評価方法・基準					
試験、作成した作品及びその発表の点数を重んじるが、出席状況・授業態度・積極性も含め、総合的に評価する。					
履修上の注意点					
<p>①知識・理論分野については、テキストを下敷きとするが、授業中に読み進めるわけではないので、各自事前に該当箇所を熟読の上、内容を押さえ疑問等を整理しておくこと。</p> <p>②テキストを用いた知識・理論分野については、第13回において筆記試験を行う。試験の際は自筆のノートのみ持込可とするが、テキストは持込不可なので注意すること（ノートにテキストのコピーを貼っているものは不可）。</p> <p>③児童文化教材の作成については、第14・15回において自作品の発表を行うので、それまでに完成させること。</p>					
教科書					
保育者のための言語表現の技術（萌文書林）					
参考書					
特に指定しない					

授 業 内 容	
1回	①オリエンテーション ②Ⅰ．児童文化財とは何か——知育・徳育・美育の働き—— （テキスト p.010~022）
2回	③Ⅱ．児童文化と表現——子どもの表現をそだてるために—— （テキスト p.023~035）
3回	児童文化教材の作成①
4回	①Ⅱ．児童文化と表現——子どもの表現をそだてるために—— （テキスト p.023~035）
5回	②Ⅲ．子ども（乳幼児）のことばの発達 （テキスト p.036~050）
6回	児童文化教材の作成②
7回	①Ⅲ．子ども（乳幼児）のことばの発達 （テキスト p.036~050）
8回	②Ⅳ．児童文化財とことば——保育内容領域「言葉」とのかかわり—— （テキスト p.051~071）
9回	児童文化教材の作成③
10回	①Ⅳ．児童文化財とことば——保育内容領域「言葉」とのかかわり—— （テキスト p.051~071）
11回	②Ⅴ．子どものことばを豊かに育む保育者の役割——保育者の役割と環境構成—— （テキスト p.072~098）
12回	児童文化教材の作成④
13回	筆記試験
14回	発表
15回	

令和6年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
乳児保育Ⅱ			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
<p>(授業のテーマ) 乳児保育Ⅰで学んだことをもとに、3歳未満児の発達および保育について理解を深める。グループワークや実技演習を通して3歳未満児のデイリープログラムに沿った生活や遊びの援助について、実践力を身につける。</p>					
<p>(学習目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3歳未満児の発育・発達を理解する ・ 生活や遊びの援助の基本について理解し実践力を養う ・ チーム保育の基本である個人の考察力と伝え合う力をつける 					
評価方法・基準					
平常点 (70%) 発表 (30%) を基準とし、総合的に評価する					
履修上の注意点					
<p>最終課題として、グループ毎の発表 (各5分程度) があります。年齢別の具体的な生活場面や遊び活動を想定し、テーマに沿って調べ、グループ考察を行って下さい。チーム保育の基本である「協働性」と「伝え合う力」を評価します。個人の学びや考察したことを、全体に発信できるよう、主体的に授業に参加しましょう。</p>					
教科書					
新基本保育シリーズ15 乳児保育Ⅰ・Ⅱ (中央法規)					
参考書					
保育所保育指針 他					

授 業 内 容	
1回	オリエンテーション、0歳児クラスの生活の流れ
2回	0歳児クラスの保育環境 ・ 援助の実際
3回	演習～0歳児クラスの生活 (おむつ交換・着脱・授乳・離乳食など)
4回	1歳児クラスの生活の流れ
5回	1歳児クラスの保育環境 ・ 援助の実際
6回	演習～1歳児クラスの遊び (平行遊びからごっこあそびへ)
7回	2歳児クラスの生活の流れ
8回	2歳児クラスの保育環境 ・ 援助の実際
9回	演習～手指の発達を促す遊びと生活習慣 / グループワークの準備
10回	グループワーク (視診・排泄・遊びと安全・午睡・巧緻性)
11回	発表準備
12回	グループ発表会
13回	実技演習① ～ わらべうた・手遊び
14回	実技演習② ～ ルールあそびの基礎 ♪とんとどなた・しっぽとり
15回	まとめ

令和6年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子どもの健康と安全			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
<p>(授業のテーマ) 保育保健において、子どもの健康と安全は最重要課題であると考えます。子どもの健康と安全を守るために必要な保育環境についてわかるとともに、保育施設内外での事件事故を防ぐための知識と技能について身に付け、保育現場で生かせる力を身に付けることをテーマとします。</p>					
<p>(学習目標) ・保健的観点を踏まえた保育環境および援助についてわかる ・保育における健康および安全管理についてわかる ・子どもの体調不良などに対する適切な対応についてわかる ・子どもがよくかかる感染症の対策についてわかる ・保育で必要な保健的対応についてわかる ・健康および安全管理の実施体制についてわかる</p>					
評価方法・基準					
授業への参加姿勢・出欠 20% テスト 80%					
履修上の注意点					
授業は教科書に沿って進めるが、進度によっては変更する可能性あり。					
教科書					
『子どもの健康と安全演習ノート』 編著 小林美由紀 診断と治療社					
参考書					
随時提示する					

授 業 内 容	
1回	ガイダンス
2回	第1章 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助を知ろう ① 子どもの健康と保育環境
3回	② 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康および安全管理
4回	第2章 保育における健康および安全管理について知ろう ① 衛生管理
5回	② 事故防止および安全対策
6回	③ 危機管理と災害への備え
7回	第3章 子どもの体調不良などに対する適切な対応を知ろう ① 体調不良や傷害が発生した場合の対応と救急処置
8回	② 救急処置および心肺蘇生法
9回	第4章 子どもがよくわかる感染症の対策を知ろう ① 感染症の集団発生の予防 ② 感染症発生時と罹患後の対応
10回	第5章 保育で必要な保健的対応を知ろう ① 保育における保健的対応の基本的な考え方
11回	② 3歳未満児への対応
12回	③ 個別的な配慮を要する子どもへの対応
13回	④ 障害のある子どもへの対応
14回	第6章 健康および安全管理の実施体制を知ろう
15回	まとめ・テスト

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
社会的養護Ⅱ		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
<p>(授業のテーマ)</p> <p>施設養護と家庭養護の特徴を理解し、社会的養護における計画、記録、自己評価の実際を学ぶ。また、社会的養護における相談援助の方法や技術を理解する。</p> <p>授業は現場の保育に応用できるように子どもの力を引き出す遊びの紹介や演習する機会を多く設け具体的な授業展開を図る。</p>					
<p>(学習目標)</p> <p>① 社会的養護の役割について理解している</p> <p>② 施設における保護者との連携について考えることができる</p> <p>③ 個々の子どもの状態に応じた遊びが実践できる</p>					
評価方法・基準					
<p>講義中に示す小課題 30%</p> <p>講義・演習への積極性 10%</p> <p>最終レポート 60%</p>					
履修上の注意点					
<p>子どもにかかわる専門職を目指すにあたり、社会的養護にかんする知識はどの立場においても重要です。興味関心を持って取り組んでください。</p>					
教科書					
<p>社会的養護Ⅰ―「新しい社会的養育ビジョン」の理解に向けて― 鈴木幸雄・梶原敦・美馬正和 (同文書院)</p>					
参考書					
<p>演習・保育と社会的養護実践―社会的養護Ⅱ― 橋本好市・原田句哉 (みらい)</p> <p>社会的養護内容 伊藤嘉余子・小池由佳編著 (ミネルヴァ書房)</p>					

授 業 内 容	
1回	ガイダンス 児童虐待
2回	社会的養護の基本理念と原理
3回	児童福祉施設における保育士の役割
4回	施設における支援の実際
5回	施設における支援の段階
6回	虐待を受けた子どもへの対応
7回	子どもの権利① 子どもの権利条約
8回	子どもの権利②
9回	社会的養護の動向と新しい社会的養育ビジョン 乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設の特性と実際
10回	社会的養護にかかわる相談支援 (児童虐待の実際と地域の家庭への支援)
11回	社会的養護にかかわる相談支援 (事例から考える)
12回	社会的養護にかかわる相談支援 (マッピング技法)
13回	児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児施設の特性と実際
14回	被措置児童等虐待
15回	まとめ

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
子育て支援		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
<p>(授業のテーマ) 保育所保育指針に示されている子育て支援を理解すると共に、必要な子育て知識や虐待の予防、保護者の子育て上の心配や悩みの解決への支援の仕方、保護者支援のために必要な保育技術や制度・政策、保育者として知っておくべきことを、グループワークやロールプレイング等の演習を通して学ぶ。 また諸外国の子育て支援を学ぶことで今度の子育て支援に生かしていけるようになる。</p> <p>(学習目標)</p> <p>① 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。子育て支援の現状について述べることができる</p> <p>② 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p>					
評価方法・基準					
ミニレポート 50点（10点×5回） 授業中のグループワーク等の参加姿勢 30点 提出物 20点					
履修上の注意点					
演習を中心に行うため、話し合い、グループワークへの積極的な参加を求める。 グループワーク等でIT機器（PC、タブレット、スマートフォン）の利用をすることがある。					
教科書					
毎時間プリント配布するため、教科書は不要					
参考書					
必要があれば適宜紹介をしていく					

授 業 内 容	
1回	子育て支援とは
2回	子育て環境の現状
3回	日本の子育て支援制度の成り立ち
4回	日本の子育て支援制度現在
5回	子育て支援におけるおもちゃや絵本の必要性について
6回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 グループワーク①
7回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 グループワーク②
8回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 グループワーク③
9回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 グループワーク④
10回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 グループワーク⑤
11回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 発表
12回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 発表
13回	地域資源と関係機関 グループワーク
14回	地域資源と関係機関 グループワーク
15回	まとめ

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
社会的養護ⅠB		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
<p>(授業のテーマ) 社会的養護について、広い視点から理解を深めるとともに、専門性を高めていく。 ① ディスカッションを交えながらの事例検討 ② 個別支援計画の作成やソーシャルワーク実践の流れについて ③ 社会問題について福祉的視点で考える ※オンラインなどの状況により変更する可能性があります</p> <p>(学習目標) 多様性を受け入れ、よりグローバルな視点で考え、個々に寄り添った関わりかたを身につける。 ※オンラインなどの状況により変更する可能性があります</p>					
評価方法・基準					
発言力、協調性、客観性、グローバル視点、誠実性、レポート、テストなど ※オンラインなどの状況により変更する可能性があります					
履修上の注意点					
知識や技能の習得は必要な要素だが、社会的立場において「子どもと、個の人間として関わる ことができるか」について個々に模索し、イメージや意味づけを行なう姿勢が望ましい。					
教科書					
社会的養護〈1〉(図解で学ぶ保育)・児童の福祉を支える演習社会的養護Ⅱ 萌文書林					
参考書					
特になし					

授 業 内 容	
1回	専門職と資格、第三者評価、苦情解決 ※オンラインなどの状況により講義内容や展開が変更する可能性があります
2回	ソーシャルワーク① (マクロ、メゾ、ミクロ)
3回	ソーシャルワーク② (個別支援計画、相談支援)
4回	事例検討① (例：いじめについてなど)
5回	事例検討② (例：性についてなど)
6回	事例検討② (例：差別についてなど)
7回	事例検討 or ソーシャルワーク実践に必要な用語
8回	事例検討 or ソーシャルワーク実践に必要な用語
9回	事例検討 or ソーシャルワーク実践に必要な用語
10回	テスト or レポート
11回	テスト or レポート
12回	テスト or レポートのふりかえり
13回	ボランティア論
14回	社会的養護復習とまとめ・授業ふりかえり
15回	保育士を目指す皆さんへ (自己覚知、自己開示)

令和6年度シラバス

科目名			単位	担当教員名		
保育実践演習			2単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習	
科目概要						
(授業のテーマ) 保育士としての現場活動の探究による課題の発見とその解決法を主題とする 1) 保育士として求められる技能の理論、その習得を確認し活用する演習 2) 保育を取りまく環境、技能等についての問題を探究し、実践的に形にする 3) 保育に関する制度、社会環境等について課題を探り、課題解決のための手段を考え、討議によって探求と理解を深める						
(学習目標) ◎ 個人での取り組み、共同作業（グループワーク）の積極的な活動を行うこととする ◎ 課題や目標に対し、保育理論に基づいた考察とその実践例を制作し結果を発表する。また、それについての意見を述べ（討議）各自の考察と理解を深める。 ◎ 発表用資料、配布用レジュメ等をしっかりと作成できるようにする。						
評価方法・基準						
1. 授業に取り組む姿勢及び態度 (30%) 2. 協力的姿勢 (30%) 3. 発表 (40%)						
履修上の注意点						
一つの分野で40分間の発表をしてもらいます。時間内に収まるよう、各分野で協力し準備をしっかり行う必要があります。発表に対する質疑等は止揚を目指すものであり、優劣を競うものではありません。個人だけでなく、グループワークの場合もあるので誰かに依存するのではなく、各自が積極的に取り組む必要があります。						
教科書						
使用しない（必要のある場合は授業内で紹介する）						
参考書						
二年間の学びを集大成できるよう、これまで使用したテキスト等を有効活用することがのぞましい						

授 業 内 容	
1回	授業趣旨説明とガイダンス等。
2回	〃
3回	取組内容に基づく各担当教員からの説明等。
4回	作業活動
5回	〃
6回	〃
7回	〃
8回	〃
9回	〃
10回	〃
11回	〃
12回	〃
13回	〃
14回	〃
15回	〃

	授 業 内 容
16回	作業分担に基づく各種作業 発表前の最終確認作業（授業担当者による添削等の相談）
17回	〃
18回	〃
19回	〃
20回	〃
21回	〃
22回	〃
23回	〃
24回	〃
25回	〃
26回	〃
27回	〃
28回	成果発表
29回	〃
30回	〃

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
音楽		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
<p>(授業のテーマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育士として必要とされる音楽理論(楽典)を習得する。 2. へ長調・3拍子の曲「ぞうさん」を弾いてみる。 <p>(学習目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題曲「おかえりのうた」の前奏でペダルを使ってみる。 2. リズム ♪♪ 連続の箇所は、リズムがいい加減にならないよう気をつける。 					
評価方法・基準					
<ul style="list-style-type: none"> ・ ♪♪ 連続が正しく弾けているか、全体的に軽やかに弾けているか、指使いは正しいか等 ・ 弾き歌いも加味する 					
履修上の注意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・ ♪♪ のリズム連続の練習の仕方を学び、そのうえで、♪♪ 連続を正しく保てるようリピート練習することが望ましい ・ 授業内容については、予定を変更することがある 					
教科書					
<p>「大人のための音楽ワーク」 紙鍵盤、一つにまとめた五線紙(1枚)、和音コードネーム、練習曲</p>					
参考書					

授 業 内 容	
1回	テキスト⑤章 記号と楽語
2回	課題曲「おかえりのうた」右手の ♪♪ リズムの弾き方
3回	練習曲「ぞうさん」三拍子、へ長調の説明
4回	テキスト⑥章 音程の種類
5回	「おかえりのうた」右手と左手
6回	「ぞうさん」
7回	テキスト⑦章 音階
8回	「おかえりのうた」ピアノで個人レッスン
9回	残り時間「ぞうさん」
10回	テキスト⑧章 和音
11回	「おかえりのうた」ピアノで個人レッスン
12回	
13回	音楽理論のテスト
14回	課題曲「おかえりのうた」弾き歌い実技テスト
15回	残り時間「大きなくりの木の下で」

※授業の進捗状況によって適宜変更の可能性もありますのでご承知おきください。

令和6年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
造形			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
<p>(授業のテーマ) 造形表現に関する保育者としての実践力を高めるとともに援助の拠り所となる基本的な考え方を把握する。 幼児の造形表現に関する実践力を高めるために体験的な演習を実施する。</p> <p>(学習目標) 【実践的指導力】 幼児の造形表現に関する実践的指導力を高める。 【基本的な考え方】 実践的指導力の拠り所となる基本的な考え方を把握する。</p>					
評価方法・基準					
授業参加度・出席態度・制作過程・制作物・ポートフォリオをみて総合的に評価する。					
履修上の注意点					
はさみ、のり、カッター、ホッチキスなど工作に必要なものを各自用意する。 制作過程や作品は必ず写真で記録をする。					
教科書					
なし					
参考書					
<p>「新造形表現 実技編」編著 花篤實・岡田愨吾、「美術教育概論」日本文教出版(改訂版)、 「GIFTS FROM THE CHILDREN 子どもたちからの贈りもの—レジョ・エミリアの哲学に基づく保育実践」秋田喜代美 著(萌文書林)、「ハーバード・プロジェクト・ゼロの芸術認知理論とその実践」池内慈朗 著(東信堂)</p>					

授 業 内 容	
1回	「オリエンテーション」子どもの造形表現と素材や環境について。
2回	「身近なものからの展開1」紙を使った活動と遊びについて。
3回	「身近なものからの展開2」紙を使った活動の展開を考察する。
4回	「造形遊びについて」過程を大切にすることについて。
5回	「自分を見つめる造形活動1」テーマをもとに廃材を使った表現を検討する。
6回	「自分を見つめる造形活動2」テーマをもとに廃材を使った制作をする。
7回	「自分を見つめる造形活動3」テーマにあった表現の工夫をする。
8回	「自分を見つめる造形活動の鑑賞と考察1」成果発表をする。
9回	「自分を見つめる造形活動の鑑賞と考察2」意見交換と活動のまとめをする。
10回	「動きが生まれる表現について」紙を使った動きの考察をする。
11回	「気持ちを伝える形1」テーマにあった素材の選択と制作をする。
12回	「気持ちを伝える形2」テーマにあった形の検討と制作をする。
13回	「気持ちを伝える形3」テーマにあった表現の工夫をする。
14回	「記録について1」子どもの造形表現に関わる大人の役割について。ポートフォリオの作成を通して活動を振り返る。
15回	「記録について2」出来事を共有するポートフォリオの意義について。

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
体育（実技）		2単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
<p>(授業のテーマ) 子どもの運動能力や体力の基礎となる力を養うために必要な運動あそびの基本について理解を深める。また、自らのからだを素材とする表現あそび、各種遊具を使った運動あそび等を楽しみ実践するための指導法、運動あそびにおける安全管理や環境設定などについても学びます。</p>					
<p>(学習目標) ・幼児期に必要な基本運動を理解することができる。 ・子どもの発育・発達に応じた運動あそび・表現あそびの展開方法について理解する。 ・運動あそびを楽しみ実践する援助法や安全管理（環境、遊具等）の基本について理解する。</p>					
評価方法・基準					
実技テスト、レポート提出などの課題結果、および出席状況、授業に参加する学習態度、積極性を踏まえ、総合的に評価する。					
履修上の注意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・実技です。運動に適した動きやすい服装、髪型、靴で参加のこと。 ・水分補給用の飲み物、筆記具を持参する。 ・準備、片付けは協力して行い、遊具の安全管理や環境設定に必要な知識の修得も図る。 					
教科書					
なし					
参考書					
なし					

授 業 内 容	
1回	オリエンテーション、授業の内容及び進め方について
2回	からだを使って遊ぶ1、模倣歩き
3回	からだを使って遊ぶ2、全身運動
4回	鬼遊びの内容と指導法について①、子ども様子をを知る
5回	鬼遊びの内容と指導法について②、色々な鬼遊びを経験する
6回	鬼遊びの内容と指導法について③、鬼遊びを考案し発表する
7回	色々なマット運動種目の自己の技術について確認
8回	マットを用いた遊びの安全管理・補助法について①
9回	マットを用いた遊びの安全管理・補助法について②
10回	なわ跳び運動の自己の技術について確認
11回	短なわを用いた遊びの指導・補助法について
12回	長なわを用いた遊びの指導・補助法について
13回	ここまで行った補助法・補助法の修得確認を実施①
14回	ここまで行った補助法・補助法の修得確認を実施②
15回	修得確認振り返り

	授 業 内 容
16回	鉄棒種目の自己の技術について確認
17回	鉄棒を用いた遊びの安全管理・補助法について①
18回	鉄棒を用いた遊びの安全管理・補助法について②
19回	跳び箱運動開脚とびの自己の技術について確認
20回	跳び箱開脚とびの安全管理・補助法について①
21回	跳び箱開脚とびの安全管理・補助法について②
22回	ここまで行った補助法・補助法の修得確認を実施①
23回	ここまで行った補助法・補助法の修得確認を実施②
24回	サーキット遊びの内容と安全管理、指導法について
25回	ボール遊びの導入法・安全管理、指導法について①
26回	ボール遊びの導入法・安全管理、指導法について②
27回	集団で行われる運動遊びの内容と指導法について
28回	運動遊びの指導案の作成について
29回	運動遊びの発表（模擬保育）①
30回	運動遊びの発表（模擬保育）②

令和6年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育実習指導Ⅱ			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	演習
科目概要					
<p>(授業のテーマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に対する目的を持ち、楽しむ準備、心の準備。 2. 実習で実践できるものをそれぞれで考える 3. 考えたもの、覚えたものを披露し合い、他者の前で行う事に慣れる 4. 相手の話を傾聴し、肯定する <p>(学習目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習中子ども達と楽しく過ごせるようにイメージが出来るようになる 2. 気持ちを恥ずかしさから開放し、全力保育を行う為の気持ち作り 3. 保育で実践できるものを1つでも多く積極的に覚える 4. 子ども達の立場になって考える習慣を作っていく 5. 傾聴できる集中力を高める 					
評価方法・基準					
<ul style="list-style-type: none"> ・実習への意欲、準備、期待感、学ぶ姿勢。 ・出席状況、授業態度、積極性を総合的に評価する。 ・教員を含め、授業に参加している全ての人の意見、考えを肯定的に聞く、話す。 					
履修上の注意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・人数に応じて授業内容を変更する場合があるが、変更後も実習に向けての内容になる。 ・内容変更する場合は、事前にお知らせする形となる。 ・授業内容に応じて各自に必要なものは、各自で管理し、持ってくる。 					
教科書					
参考書					

授 業 内 容	
1回	子ども主体の保育実践について学ぶ。
2回	子どもへの関わり方について、具体例から学ぶ。
3回	子どもの個々に寄り添う保育実践について具体例から学ぶ。
4回	保育で実践できる具体的な遊びを知り、学ぶ。
5回	実習に向けて準備をする時間
6回	実習に向けて準備をする時間
7回	実習に向けて準備をする時間
8回	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを披露し合う ・絵本を読み聞かせの練習
9回	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを披露し合う ・絵本を読み聞かせの練習
10回	実習において、自分自身の課題や目的を明確にし、準備する。
11回	実習において、自分自身の課題や目的を明確にし、準備する。
12回	実習において、自分自身の課題や目的を明確にし、準備する。
13回	保育園実習の振り返り
14回	保育園実習の振り返り
15回	保育園への就職について細田から情報提供や相談ごとに対して解答する時間

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
保育実習指導Ⅲ		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	選択必修	授業形態	演習
科目概要					
<p>(授業のテーマ)</p> <p>1. 保育実習Ⅰの評価や教員の指導を基に、実習Ⅱ・Ⅲでの課題を明確にし、具体的な準備を行う。実習終了後は課題に対しての省察を行い、今後の学習につなげる。</p> <p>2. 実習や既習の教科目を踏まえた保育の改善を踏まえ保育の実践力を習得する。保育の観察や記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について、事例や実践を通して理解する。</p>					
<p>(学習目標)</p> <p>1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。また、保育士の専門性と職業倫理について理解する。事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p>					
評価方法・基準					
<p>・実習日誌の記述内容（25%）、実習先による評価（25%）、実習に必要な課題や提出物（25%）、実習の振り返り（25%）</p>					
履修上の注意点					
教科書					
「実習日誌の書き方」「幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド」					
参考書					
「保育所保育指針」					

授 業 内 容	
1回	オリエンテーション・施設実習の目的
2回	児童福祉施設の種類・保育士の役割
3回	施設理解・施設で働く専門職の理解1
4回	施設理解・施設で働く専門職の理解2
5回	施設理解・施設で働く専門職の理解3
6回	福祉施設での実習の視点について
7回	自己課題
8回	実習日誌における記録および評価
9回	支援計画の理解・家族支援
10回	実習振り返り
11回	自己評価
12回	実習報告会準備
13回	実習報告会
14回	実習事例から学ぶ
15回	まとめ

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
社会福祉施設経営と管理		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
<p>(授業のテーマ) 社会福祉施設に特質と理念及び仕組み、経営を多角的な視点から考察し理解することをねらいとする。社会福祉施設における運営と行政機関との関わり等事例を交えながら学び、現場での実践に対応できる力を養う。 (実際に施設経営をされている方をゲスト講師にお招きし、講義を担当していただく)</p> <p>(学習目標) 社会福祉施設の管理・運営の基本について理解する。 社会福祉施設の制度や概要、経営について理解する。</p>					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性、試験成績等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					
適宜、参考資料を配布する。					

	授 業 内 容
1回	社会福祉施設の経営①
2回	社会福祉施設の経営②
3回	社会福祉施設の経営③
4回	社会福祉施設の経営④
5回	社会福祉施設の経営⑤
6回	社会福祉施設の経営⑥
7回	社会福祉施設の管理・運営①
8回	社会福祉施設の管理・運営②
9回	社会福祉施設の管理・運営③
10回	社会福祉施設の管理・運営④
11回	社会福祉施設の管理・運営⑤
12回	社会福祉施設の管理・運営⑥
13回	社会福祉施設の管理・運営⑦
14回	社会福祉施設の管理・運営⑧
15回	まとめ

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
メンタルヘルス		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
<p>(授業のテーマ) 本科目では、こころの健康の問題について、精神医学（病気）、臨床心理学（個人）、社会心理学（対人関係）、産業組織心理学（職場内）などをベースとしたメンタルヘルスの知識を習得すると共に、メンタルヘルス不調時における社会保障制度について学ぶことで、実践的なメンタルヘルスの対応と支援スキルを身につける。</p>					
<p>(学習目標) ・こころの病気について基礎的な知識を身につける。 ・メンタルヘルスの予防対策について考えることができる。 ・こころの病気になった場合の対応・支援方法について考えることができる。 ・こころの病気になった場合の社会保障制度の知識を身につける。</p>					
評価方法・基準					
リアクションペーパー・グループワーク発表内容					
履修上の注意点					
グループワークでの討議・発表を行う					
教科書					
指定教科書無し					
参考書					
講義の中で適宜紹介する					

授 業 内 容	
1回	メンタルヘルスの概要
2回	メンタルヘルスマネジメント 自分・家族・利用者・同僚・親友など
3回	メンタルヘルス予防 メンタルヘルスケア
4回	メンタルヘルス不調①（主な症状・病気） うつ症状、うつ病、適応障害、双極性障害など
5回	メンタルヘルス不調② 社会保障制度（健康保険法・自立支援医療制度・介護保険法）
6回	メンタルヘルス不調③ 社会保障制度（障害基礎年金・障害厚生年金）
7回	メンタルヘルス不調④ 会社制度（就業規則）、職場内の支援
8回	メンタルヘルス不調⑤ 対応・支援まとめ
9回	個人のメンタルヘルス（精神医学・臨床心理） 薬物療法・認知行動療法
10回	対人関係でのメンタルヘルス（社会心理） 認知的不協和理論、対人魅力、ゲーム理論
11回	職場内でのメンタルヘルス（産業組織心理） 過労（労災）・パーンアウト・キャリア形成論
12回	こころの病気による休職・失業・就労支援 社会保証制度・障害福祉施設
13回	メンタルヘルスと幸福学（幸福の秘訣） ハーバード大学の成人発達研究を中心に
14回	グループワーク（ケーススタディ）
15回	グループワークの発表

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
キャリアプランニングⅡ		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	演習
科目概要					
<p>(授業のテーマ) キャリアプランニングⅠをふまえて、保育士としての仕事、就業する職場について理解を深める。保育業界ならびに一般社会で活躍する人材となるために必要なスキルを学ぶ。この授業では、特に保育士としての「職業観」の形成に焦点をあて、今後の就職活動に備え心得ておくべき知識等を学ぶ。</p> <p>(学習目標) ① 保育者として必要な「職業観」を身に付け、働き続けるためのキャリアパスを描く。 ② 社会人としての自覚を持ち、責任ある行動とは何か考え、行動できるようになる。 ③ 子どもを理解する気持ちを持ち、子ども主体の保育を実践するために必要な能力を身に付ける。</p>					
評価方法・基準					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席・態度・・・30% ・演習態度・・・30% ・単位認定試験・・・40% 					
履修上の注意点					
教科書					
指定しない。必要に応じて資料を配付する。					
参考書					

授 業 内 容	
1回	授業概要説明
2回	保育の専門性について
3回	保育士に求められる「職業観」／子育て支援
4回	保育士に求められる「職業観」／保育園・認定こども園
5回	保育士に求められる「職業観」／療育現場
6回	保育士に求められる「職業観」／児童福祉
7回	保育士に求められる「職業観」／総合
8回	社会人・保育士に求められる労働意識①
9回	社会人・保育士に求められる労働意識②
10回	保育士を目指す就職活動準備と心得／社会人として①
11回	保育士を目指す就職活動準備と心得／社会人として②
12回	保育士を目指す就職活動準備と心得／保育園・認定こども園で働く
13回	保育士を目指す就職活動準備と心得／療育現場で働く
14回	保育士を目指す就職活動準備と心得／児童福祉施設で働く
15回	まとめ

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
療育総論		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
<p>(授業のテーマ) 保育士に求められる療育は多様な理論が存在する。本科目では障害児保育で学んだことをベースに、療育の諸理論を俯瞰的に捉えることで療育について総合的に考察していく。もって専門性を備えた保育士の力を涵養する。</p> <p>(学習目標) 多様な療育の理論について、その基本的発想を説明することができる。</p>					
評価方法・基準					
授業への参加・貢献度 (30%)、授業内ワーク (20%)、レポート試験 (50%)					
履修上の注意点					
資料は全て電子的な方法 (Google drive など) で配布し、紙資料は配布しない。各自必要に応じて印刷して持参すること。					
教科書					
参考書					
電子的な方法で適宜補足資料を配付する。					

授 業 内 容	
1回	療育についての基本的理解
2回	【応用行動分析】 強化と弱化
3回	機能分析
4回	消去と分化強化
5回	DTT と NAT
6回	タイムアウト
7回	【TEACCH プログラム】 TEACCH プログラムの概要
8回	視覚的構造化と環境調整の実際
9回	TEACCH を療育に取り入れる
10回	【PECS】 PECS の概要
11回	発達障害と絵カードコミュニケーション
12回	絵カード式コミュニケーションを療育に取り入れる
13回	【ESDM】 ESDM の概要
14回	早期療育の実際
15回	科目終了試験

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
情報処理応用		1 単位			
開講年次	2 年次	科目区分	選択	授業形態	演習
科目概要					
<p>(授業のテーマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Office 操作の高度な操作技術を身につける。 ・Microsoft Office の多様機能を活用し、実践的かつ効果的な資料やデータを作成できるようにする。 <p>(学習目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Word を活用して「おたより、園だより、イラスト」を効率よく作成する。 ・Excel を活用して高度な数式、グラフ（じょうご、2D マップ）、表作成および編集する。 ・PowerPoint を活用して「園のプレゼンテーション」資料作成する。また、ビデオ挿入・オーディオ挿入、パスワードの設定を学ぶ。 ・Publisher（簡易 DTP ソフトウェア）を活用してチラシ、パンフレットなどを作成する。 					
評価方法・基準					
<p>出席・授業態度：30%</p> <p>作成課題：70%</p>					
履修上の注意点					
毎回 USB メモリを持参すること					
教科書					
教科書なし 適宜プリント配布					
参考書					
なし					

授 業 内 容	
1 回	オリエンテーション 入力練習
2 回	Word 演習① ヘッダー/フッター（奇数/偶数ページ、日付と時刻、ドキュメント情報） 参考資料（脚注の設定）、校閲（スペルチェックと文章校正、文字カウント）
3 回	Word 演習② ページの背景（透かし、ページの色、ページ罫線）
4 回	Word 演習③ 園だより（おたより）作成
5 回	Word 課題作成
6 回	Excel 演習 [Excel 復習①] フィルター（並べ替え、抽出） ピボットテーブル・グラフ スライサーを使用してピボットテーブルをフィルター処理、
7 回	Excel 演習 [応用関数①] 数学/三角関数（SUMIF、SUMIFS、SUBTOTAL、SUMPRODUCT、ROUND、 ROUNDUP、ROUNDDOWN、MOD）
8 回	Excel 演習 [応用関数②] 日付/時刻関数（TODAY、DATESTRING、EDATE、WORKDAY、DATEDIF）
9 回	Excel 演習 [応用関数③] 統計関数（COUNTIF、RANK.EQ） 検索/行列関数（VLOOKUP） 論理関数（IF）
10 回	Excel 課題作成
11 回	PowerPoint 演習① 背景の削除、画像のトリミング、ビデオ挿入・再生、オーディオ挿入、
12 回	PowerPoint 演習② ノート機能、配布資料、パスワード設定/解除、図形内にイラスト挿入
13 回	Publisher 演習① Microsoft Publisher の基本操作（チラシ作成）
14 回	Publisher 演習② Microsoft Publisher で園だより作成
15 回	まとめ

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
幼児体育Ⅱ		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	演習
科目概要					
<p>(授業のテーマ)</p> <p>保育現場では日常的に子どもたちに身体を使った運動や遊びが必要とされます。様々な運動や遊びを通して、子どもの運動遊びの必要性を理解し、安全に効果的に指導できるような力を身に付けましょう。</p> <p>(学習目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「表現運動遊び」を楽しく実践する技能と指導法を身につける。 ・子どもの発育・発達に応じた運動遊びの展開方法について理解する。 ・様々な運動遊びの援助法や安全管理（環境、遊具等）の基本について理解する。 					
評価方法・基準					
授業に参加する学習態度、積極性を踏まえ、実技テストおよび出席状況など総合的に評価する。					
履修上の注意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・実技です。運動に適した動きやすい服装、髪型、靴で参加のこと。 ・水分補給用の飲み物、筆記具を持参する。 ・準備、片付けは協力して行い、遊具の安全管理や環境設定に必要な知識の修得も図る。 					
教科書					
参考書					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション、授業の内容及び進め方について
2回	集団遊びと伝承遊び
3回	表現リズム遊び①学ぶ
4回	表現リズム遊び②考案
5回	表現リズム遊び③発表
6回	バルーン遊び①学ぶ
7回	バルーン遊び②考案
8回	バルーン遊び③発表
9回	表現遊び 組体操①学ぶ
10回	表現遊び 組体操②考案、発表
11回	ここまでの総まとめ 運動会（発表会）の企画と立案①
12回	ここまでの総まとめ 運動会（発表会）の企画と立案②
13回	運動会（発表会）の発表①
14回	運動会（発表会）の発表②
15回	運動遊びの発表（模擬保育）、評価

令和6年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
ピアノB		1単位			
開講年次	1年次	科目区分	選択	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 1. 楽譜の音符とコードネームを理解する。 2. 臨時記号やリピート記号等、楽曲を通して復習する。					
(学習目標) 1. 弾んだリズムを正しく弾こう。 2. 弾き歌いにも慣れよう。					
評価方法・基準					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 音符、指使い、リズム、テンポ等、基礎的な事が出来ているか。 ・ 簡単な（レベル1）のアレンジした楽譜も用意する。 					
履修上の注意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆっくりのテンポでも良いので次の小節に移る時等、間があかないように練習する。 					
教科書					
楽譜を配布する。					
参考書					

授 業 内 容	
1回	課題曲「せんせいとおともだち」
2回	練習曲「おもちゃのチャチャチャ」
3回	「せんせいとおともだち」
4回	「おもちゃのチャチャチャ」
5回	「せんせいとおともだち」
6回	「おもちゃのチャチャチャ」
7回	「せんせいとおともだち」ピアノで個人レッスン
8回	練習曲「もりのくまさん」
9回	「せんせいとおともだち」ピアノで個人レッスン
10回	「もりのくまさん」
11回	「せんせいとおともだち」ピアノで個人レッスン
12回	「もりのくまさん」
13回	実技試験 課題曲「せんせいとおともだち」
14回	残り時間「ドレミのうた」
15回	「ドレミのうた」

※授業の進捗状況によって適宜変更の可能性もありますのでご承知おきください。